

播州歌舞伎の影響を受けた農村娯楽
美作町の地下芝居



指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	みまさかちょうのじげしばい
所在地	美作市林野
指定年月日	昭和48年5月15日
解説	江戸時代後期から、農村地域の娯楽として上演されてきた地下芝居。地下芝居とは巡業一座が行うものではなく、すべて地元の人たちで行う芝居のことであり、播州歌舞伎の影響を受け、多岐にわたる芸題が演じられた。。当地方には神社境内に多く歌舞伎舞台も建てられていた。戦後には衰退したが、地元には保存会が結成され、伝承に取り組んでいる。
アクセス方法	
公開状況	不定
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	美作町の地下芝居
よみかた	みまさかちょうのじげしばい
しょざいち (所在地)	美作市林野
していたひ (指定した日)	昭和48年5月15日
せつめい	地下芝居(じげしばい)とは、プロではなく、すべて地元(じもと)の人たちで行う芝居のことです。江戸時代(えどじだい)にはじまり、農村(のうそん)の人々にとっての娯楽(ごらく)としてとても盛(さか)んになりました。そして、いくつもの神社(じんじゃ)の境内(けいだい)に舞台(ぶたい)が建(た)てられました。美作(みまさか)の地下芝居は戦後(せんご)にいったんおとろえてしまいましたが、今では再び春と秋に公演(こうえん)されており、伝統(でんとう)芸能(げいのう)として守られています。